

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察防除情報第8号

茶のクワシロカイガラムシの防除対策について

本虫の第2世代の防除時期が近づいています。また、本虫第1世代のふ化盛期後も発生が多く、6月後期の病害虫防除所による巡回調査では、過去10年間で最も多かった平成26年と同等の発生となっています。

下記の点を参考にして適期防除をお願いします。

記

1. 発生状況等

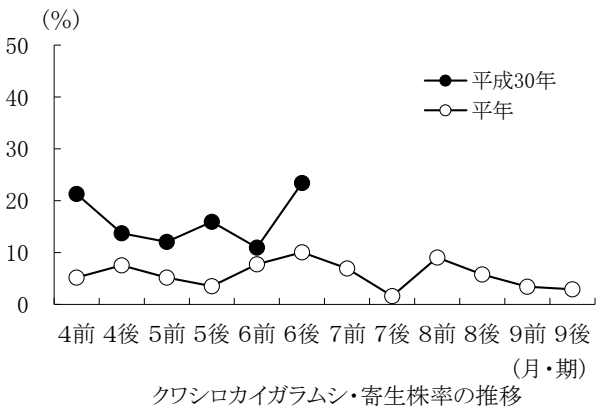
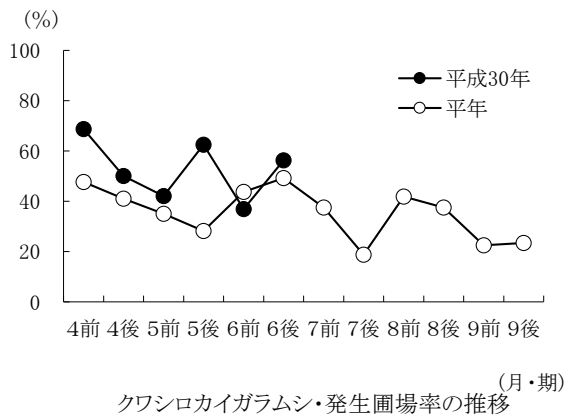
(1) 本虫第2世代のふ化盛期は、下表のとおり 平年と比べ6～7日早いと予測される。

表 クワシロカイガラムシ第2世代のふ化盛期予測日

地区名	標高(m)	平成30年	平成29年	平成28年	平年 (過去10カ年)
東彼杵町太の原	360	7/18	7/24	7/19	7/25
五島市上大津	77	7/9	7/12	7/10	7/15

注：方法は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原：6月30日（農林技術開発センター茶業研究室による測定値）、五島市上大津：7月4日（アメダスデータ）時点で予測した。なお、それぞれ実測日以降のデータは平年値を用いた。

(2) 6月後期の巡回調査（16筆）における発生圃場率は56.3%（平年49.2%）、寄生株率は23.4%（平年10.1%）で、寄生株率は過去10年間で最も高い。



2. 防除対策

- (1) ふ化後の幼虫が1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると、薬剤の効果が低下するので、ふ化盛期（50%ふ化卵塊雌率が半数となった日）～ふ化盛期5日後までに防除する。現地でふ化状況を調査している場合は、その調査に基づいて防除時期を判断する。なお、同一地区内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なり、ふ化盛期が前後する場合がありますので注意する。
- (2) 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。
- (3) 薬剤散布にあたっては、使用基準を遵守する。

○6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

